

| | | |
|--|------------|-----|
| 科目名称： | 幼児と健康 | |
| 担当者名： | 石野 友子、百海 智 | |
| 区分 | 授業形態 | 単位数 |
| 専門教育科目 | 演習 | 1 |
| 授業の目的・テーマ | | |
| <p>幼児期に、いろいろな遊びの中で十分に体を動かすことは、幼児の心身の発達において非常に重要である。健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力とは何かを実際に体を動かしながら学ぶ。また、さまざまな運動遊びを体験することで、保育者として配慮すべき環境設定や安全面についても考える。</p> | | |
| 授業の達成目標・到達目標 | | |
| <p>幼児が楽しみながら意欲的に体を動かし、心身の発達を支え、安全への意識、基本的な生活習慣を身につけることができるように指導するための基盤となる知識を修得する。また、幼児の心身の発達に関する理解を深め、指導計画を立案できるようになる。</p> | | |

| | | |
|--------|---|------|
| 幼児教育学科 | ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針） | 重点項目 |
| DP(1) | 建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。 | |
| DP(2) | 優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。 | |
| DP(3) | 幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。 | ○ |
| DP(4) | 学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。 | |

| 評価方法/ディプロマポリシー | 定期試験 | クイズ 小テスト | 提出課題 (レポート含む) | その他 | 合計 |
|----------------|------|-------------|------------------|-----|-----|
| 幼児教育DP(1) | | | | | 0 |
| 幼児教育DP(2) | | | | | 0 |
| 幼児教育DP(3) | 50 | 20 | 10 | 20 | 100 |
| 幼児教育DP(4) | | | | | 0 |
| | | | | | 100 |

| | | |
|--------------|--------------------------|-------------|
| 実務経験のある教員の担当 | 担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載） | |
| あり | 《内容1》石野 友子 幼稚園教諭 | 《経験年数1》 22年 |
| | 《内容2》百海 智 保健体育教諭 | 《経験年数2》 26年 |
| | 《内容3》 | 《経験年数3》 |
| | 《内容4》 | 《経験年数4》 |

| |
|----|
| 備考 |
| |

| 到達目標ルーブリック | すばらしい | とてもよい | よい | 要努力 |
|---------------------|--------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|
| 領域「健康」についての知識と理解 | よく理解できており、講義で得た知識を組み合わせ思考できる | 講義で得た知識を組み合わせ、自分なりに考えることができる | 領域「健康」についておおよそ理解している | 領域「健康」について、理解度が低く、知識が得られていない |
| 「幼児の運動遊び」についての知識と理解 | 経験と理論をふまえ、幼児の発達と運動について理解し説明できる | 経験と理論をふまえ、幼児の発達と運動についておおよそ理解している | 経験をふまえ、幼児の発達と運動についておおよそ理解している | 幼児の発達と運動について、理解できていない |
| 運動遊びの実践力 | 積極的に実技に取り組み、保育実践につなげることができる | 積極的に実技に取り組み、保育実践を想定することができる | 積極的に実技に取り組み、運動の意義を理解し伝えることができる | 体を動かすことに消極的で、保育を想定することができていない |
| 学びへの積極性 | 自発的に質問や意見を発すると共に、他者の意見を理解している | 自分なりに問題意識を持ち、質問や意見を発することができる | 自分なりに問題意識を持ち、意見を記述することができる | 講義への参加意欲や、他者に対する理解が見られない |

| 授業の内容・計画 | 事前事後学修の内容 | 事前事後学修時間(分) |
|---|--------------------------------------|-------------|
| 第1回 健康の定義と幼児をとりまく環境/授業概要 | 幼稚園・保育所・認定こども園の要領・指針の「健康」領域について調べておく | 30分 |
| 第2回 幼児の身体の発達と体を動かす遊びについて(幼児の姿から読み取る・電子黒板使用) | 教科書2~4pを読み、心身の発達と経験について発表できるようにまとめる | 30分 |
| 第3回 体を動かす遊び①(身体表現)実技 | 教科書62~70pを読んでおく ダンス・体操を復習し覚える | 30分 |
| 第4回 体を動かす遊び②(伝承遊び)実技及びグループワーク | 体を動かす遊びについて自身の経験を踏まえ発表できるようにしておく | 30分 |
| 第5回 体を動かす遊び③(サーキット遊び)実技 | 教科書17pを読み、幼児期の運動遊び指導について、確認する | 30分 |
| 第6回 体を動かす遊び④(縄遊び)実技 | 配布プリントを読んでおく 縄跳びを練習しておく | 30分 |
| 第7回 体を動かす遊び⑤(ボール運動)実技 | 教科書28~32pを読み、ボール遊びについて調べておく | 30分 |
| 第8回 体を動かす遊び⑥(マット・とび箱運動)実技 | 教科書5~7pを読み、幼児期の発達特性について、復習しておく | 30分 |
| 第9回 さまざまな運動遊びの計画(「ねらい」を考える)グループワーク・ディスカッション | 教科書8~16pを読み、各グループで相談し、計画を立てておく | 45分 |
| 第10回 さまざまな運動遊びの実践(展開と振り返り)グループワーク | 各グループで立てた計画を実践できるよう準備しておく | 30分 |
| 第11回 幼児の日常生活における運動 | 幼児期運動指針について調べ、発表できるようにまとめる | 30分 |
| 第12回 幼児の生活習慣(着脱衣、食事、睡眠、清潔、排泄) | 参考書の指定のページを読み、領域「健康」について深める | 30分 |
| 第13回 安全と環境 | 配布資料及び、参考書の指定のページを読み、ポイントをまとめておく | 30分 |
| 第14回 怪我の応急処置と予防 | 配布プリントを読んでおく 応急処置について、覚えておく | 30分 |
| 第15回 まとめ・遊びとしての運動の重要性 小テスト(身体表現に関する発表) | 今までの授業内容(ノート・実技)の復習と、ファイル整理をしておく | 60分 |

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、各回事後には、必ずノート(所定の用紙を配布する)を記入し、振り返りをしておく。

| 成績評価の方法・基準 |
|--|
| 定期試験は、50%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。 小テスト20% 授業の準備・グループへの積極的取組・発表姿勢20% 個人課題(授業内レポート・指導案等)10% |

| 課題に対するフィードバック |
|---|
| 個人課題(授業内レポート・指導案等)は、評価後に返却する。 グループ課題は、発表に対するコメントをフィードバックとする。 |

| 教科書・参考書 |
|--|
| 教科書:「子どもが育つ運動遊び 第二版」(倉 真智子・大森宏一 編著 みらい発行 2022年) 教科書は毎回の授業で使用する 参考書:「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」ほか適宜紹介、資料配布 |